

# Y's Men's World



Roll Back Malaria事業は大成功 シエラ・レオーネのワイズメンズ・クラブからの55人のボランティアは、マラリア撲滅キットを配布と、2008～2009年の配布計画に続く延期配布の間中、シエラ・レオーネ赤十字のボランティアと一緒に働きました。

合計320万のマラリア撲滅キットを7日の間にシエラレオーネに配布しました。資金支援面と、地域に密着したボランティア動員活動の両方を通じての赤十字、ワイズメンズク

ラブとYMCAの貢献が、このキャンペーン成功の要でした。コノとカイラフン地区で地域内に漏れなく配布できたのも彼らの活動のおかげです。

ワイズメンズ国際協会はこのキャンペーンに我々が関与したことを誇りに思います。詳細な報告は5頁と6頁に掲載しました。

## いざ立て

国際会長 藤井 寛敏



北半球では春の足音が、南半球では秋の気配が感じられる季節となりました。

皆様、2022年のワイズ100年に向かって立ち上がっていると思います。

1月には厳寒のGenevaにおいてMid Year Meeting 2011が開かれ、今期のGoal達成のために前半期の活動を振り返り、後半期の活動計画を確認しました。また、次期国際会長のFinnさんを中心に次期エリア会長が次年度の活動方針を話し合いました。

その席上、1月14日を投票期限としたIPE2011/12と国際議員2011/14の選挙結果が発表され、IPE2011/12にはインド地域のフィリップマサイさんが選出されました。おめでとうございます。歴代の国際会長の誰に聞いても私を含めてIPの時よりもIPEの時の方が苦しい時を過ごしたとっております。IPEの間にPolicy、各委員会の人選など準備に頭を悩ますからです。でもそれらの周到な準備が国際会長になったときに花開くのです。

次期から国際議員に就任する皆様、おめでとうございます。皆様を選ばれた各地域ではベテランに属する方ばかりですが、国際議員の立場は地域の利益代表という面をできるだけ抑えて、国際発展のために何がbestかを常に考え、客観的な広い視野を持ってしっかりと国際の現状を把握し、次年度からの職務に臨んで欲しいと思います。ワイズでは役員は決して名誉職ではありません。

昨年の10月24日の“UN Day”を期してスタートした5年間に亘る“Rollback Malaria” Projectはとりあえず第1年度のcontributionを3月15日をdeadlineとして締め切ります。

第2年度は4月1日からスタートしますが、4月25日の“World Malaria Day”にはKick Offイベントを企画しております。皆様のクラブ、部、区ではCS事業の1つとしてユースや地域の人々を巻き込んだprogramを工夫していただきワイズの名前を地域に知らしめましょう。

ワイズの発展の原点は個々のクラブ、個々の会員の強い意識、意志、意欲に基づく活動であることは言を待ちません。

## 編集室だより

ワイズメンズワールド編集長  
アラン・ウォーリントン



私は、ワイズ運動で最も良い役割の1つに就いていると思っています。私は極めて優れた数百のワイズメンと出会えました。私は、ワイズのリーダーと知り合い、また国際議員の活動を見てきました、そのうえ、私はワイズメン同士の出会いの場作りが出来たのです。これは編集長の冥利につきます。しかしながら、私はワイズダムにとって最も良いことを考えなければなりません、そして、正直に言って、一人があまりに長い間、同じ地位を占めることがいかなるものか、時には新鮮な考えが必要であると考えます。したがって、私は2012年6月に“仕事”を新しい編集長に引き渡したいと思うと、国際議会と国際会長に言いました。新しい編集長を見つけるのは私の仕事ではありませんが、それが誰でもあろうとも優れた編集長であると信じます。私はその人に経験を踏まえて引き継ぎたいと思っています。これからもよろしく。

*Yours in Y'sdom  
Wallington*

ワイズメンズワールド  
2010/11年度 第3号

発行者：東日本区理事 松田 俊彦（東京）  
西日本区理事 仁科 保雄（京都キャピタル）

国際編集長 Allan Wallington  
日本区翻訳・編集責任者 村野 繁（東京目黒）  
日本版翻訳者 奈良昭彦（名古屋グランパス）  
倉田正昭（京都） 谷川 寛（大阪センテナリアル）  
谷本秀康（東広島） 長尾ひろみ（宝塚）  
後藤邦夫（東京まちだ） 青木一芳（千葉）  
今城高之（横浜つづき） 中田靖泰（札幌）  
印刷 株式会社三浦印刷所

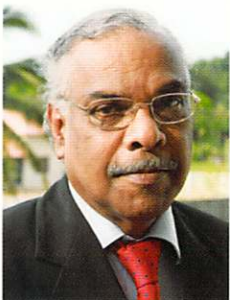
## 国際議会の新しい議員

今年の国際会長選挙の投票締め切りは1月14日でした。

この期限の後に投票用紙を送ったクラブは、選挙に参加したとは見なされますが、投票はカウントされません。

1月20日までに866のクラブが投票用紙を国際本部に送りました。

2010年12月の統計によるとクラブ数は1,598であり、投票率は54%でした。受け取った投票の内、10票は期限後の到着、197票は国際常任役員判断で様々な理由により無効とされましたので、有効票は659票となります。



インドエリアのフィリップ・マタイ氏が2011/2012年度の次期国際会長に選ばれました。2011年7月からその任に就きます。

2011年7月1日から就任する国際議員は、ヨーロッパ地域：オルガ・ウォチコーヴァさん（ロシア区）、インド地域：スージー・マシューさん（西南インド区）、インド地域：ラビ・パニグラヒ氏（中央インド区）、インド地域：K. G. ヴァルギース氏（西南インド区）、韓国エリア：ムーン・サンボン氏（韓国南区）、韓国エリア：パク・ヒドゥー氏（韓国西区）

2011年7月より就任する次期国際議員および次期エリア会長は、アフリカ地域：アリサーラ・アイソン・ムランビヤ氏（東南アフリカ区）、ラテンアメリカ地域：イヴァンニ・ザノーラ・デ・カマラ（ブラジル区）

昨年、特例で行われたアジア地域の次期国際議員の選挙で無投票当選した西堀和之氏（西日本区）は、病気のために就任を辞退されました。それゆえ改めて緊急の推薦と選挙のプロセスが必要となり、その結果は4月中旬に発表されます。

## 贈ることはお返しに喜びが頂けます

イングリアワイズメンズクラブ  
タティアナ・パティレンコ

ロシア・セボロス市イングリアワイズメンズクラブは、長年地元の孤児院を支援しています。支援の為に資金集めをしていますが、IBCのデンマークのーフスとビランドの2クラブとノルウェーのアイズボールクラブが支援金を送ってくれましたので、子どもたちにクリスマスの贈り物を持って行きました。孤児院訪問は私たちの恒例事業になっています。毎年子ども達は

心新たに立ち上がろう



私たちが心待ちにしています。クリスマスと新年のあいさつを毎年交わしていますので、お互いの絆を強めています。私たちは親しい間柄になっておりますので、子供たちは叶えてもらいたい夢を話してくれます。そして、我々はこれらの夢をかなえてあげようと努めます。

その為に我々は、各々の子供の願いをかなえた贈り物を用意します。おもちゃでも年上の者はMP3プレーヤーとラジオを選び、年上の女子は携帯電話を選びました。一人ひとりに希望の贈り物を贈りました。すべての子供たちのためには、一緒に遊びながら互いに助け合う最新ゲームを選んで、調和した人々として育つことを期待しました。子供たちも我々のために贈り物も用意していました。彼らは歌って、踊って、新年とクリスマスの詩を読んで、新年を祝う新聞を作りました。

我々は子ども達と長い時間を共にして多くの喜びを頂きました。これからも毎年孤児院を訪問することを楽しみにします。

## 目標の変更

南太平洋副編集長 ビル・シュミット

ポートピリーYMC Aの閉鎖に伴い、オーストラリア・ポートピリーワイズメンズクラブの14人のメンバーは目的を再考せざるおえなくなりました。彼らは現在資金を集めて地域奉仕に拠金しています。

近年では、メンバーは2,000オーストラリアドル寄付して、ポートピリー病院救急医療部門に2台の携帯用酸素濃度計を贈りました。病院内部部門移送時にモニターは初期心拍数と血酸素濃度の測定に役立っています。

またクラブは、1,000オーストラリアドルで障害者用乗り物と高齢者施設の地元リードホルムホームへ42インチテレビ2台を贈りました。



## ワイズメンクラブの創設者、 P.W. アレキサンダー判事

国際ヒストリアン・ウエイン・スミス



1920年にオハイオ州トレドで、YMCAに関心ある人々が集まり、昼食クラブを創りました。彼らはYMCAを支援することを目的とし、自分たちをワイズマンと称し、その集まりは「トレドYMCAワイズメンズクラブ」と呼ばれました。発案者のP.W.アレキサンダーは、この参加者たちが大変熱心であり、このクラブはYMCAにきつと役に立つと

信じた。

彼はロータリーなど他の奉仕クラブの憲法を検討して、「トレド・ワイズメンズクラブ」に相応しい憲法、その他規則を決めました。YMCAの許可をえて「ワイズメンズクラブ」という名称を使い、この昼食・奉仕クラブはYMCAへの奉仕を第一義とし、同時に各自の仕事、社会的交わりも深めるという考えを出しました。他の奉仕クラブが各自の仕事、社会的交わりの増進を中心にして、奉仕をむしろ補足的に考えているとは異なります。

1922年に国際ワイズメンズクラブ協会が設立され、彼が最初の国際会長になりました。また、1926年の国際大会で、彼は名誉会長に推され、1929年の国際大会で投票権を持つ終身理事の資格を与えられました。

P.W.アレキサンダー判事は、アレクスの愛称で知られ、1888年オハイオ州トレドで生まれ、デニソン大学、ハーバード・ロウスクールを卒業。

しばらく、法律事務所を経営しました。1918年に結婚し、1937年に判事となり、退任まで卓越した判事でした。YMCAに関連あるGeorge Williams Collegeなどから名誉称号を受けました。また、彼はワイズメンズ・ソング知られている、“Once More We Stand”の作詞家でもあります。曲はご存知の交響詩「フィンランディア」から採られています。ワイズメンの入会式宣誓文も彼が作成しました。また、彼の大きな働きの一つに、若い人がYMCAで主事として奉職してくれるようにと奨学金制度を設け、この奨学金はP.W.アレキサンダー奨学基金と呼ばれています。1962年に国際役員会は毎年12月8日の彼の誕生日を祝うことを決めました。1967年6月29日に亡くなりました。

## 国際書記長(ISG)のデスクから

国際書記長 西村隆夫

などと書かれるとISGはオフィスでいつも素敵な椅子座って、秘書が素敵なチョコレートとともにコーヒーを持ってきてくれるように思う方もいるかもしれませんが、そのような事も望みもしませんが、現実にはISGはいつも出張にでています。そして自分でコーヒーもお茶もいれてコップも自分で洗います。

昨年の9月から次期理事研修などの会議でノールウェイ、アメリカ、メキシコ、アジアそしてインドに出かけました。ビジネスマン時代も今までのワイズでも海外出張がおおく慣れてはいますが、この大きな体をエコノミー席に収めるのには苦勞します(その対策には減量しかないですね)。

これらの次期研修会やジュネーブで1月に開催された年次会議を通じて感じた事は、ワイズメン国際協会の指導者にとくに必要なのはトロイカ体制での運営です(地域、区、部、クラブでの直前、現、次期の役職です)。ウイキペディアによるとロシア語のトロイカ(キリル文字で: тройка)は数字の3、三つ一組のもの、転じて三頭立ての馬車を表します。地域や区でこのトロイカ体制が機能しているところは、引き継ぎもちゃんとできており安定した運営が続いています。しかしこのトロイカ体制が存在していないところは、期が変わるたびに期待できない状況が起こっています。新しいアイデアとアプローチが試されるかもしれませんが、継続性はありません。

皆さんはワイズメンズ国際協会が2022年に向けて必要なのはどちらと思われますか? LTOD(指導者研修と組織開発)はすべての段階でこのトロイカ運営体制に焦点あてて努力をしていく必要があると思います。当然そのほうがゴールや目的に対して効率的で魅力ある対応が実現できると私は信じています。これから先の訪問ではよりよいトロイカ体制が確認できると期待しています。ところで私はお寿司の国、日本出身ですが、日本語ではトロは脂ののったマグロです、イカは烏賊です。ですから“トロ”は直前国際会長のケビン、“イカ”は現国際会長の藤井さん、そして次期国際会長のフィン“タコ”(寿司の3大ネタの蛸)ということでしょうか?ですから国際ではトロ、イカ、タコ、といったところでしょうか?ですからもし貴方が寿司のファンならこのトロイカ体制は簡単に理解できますね。私も寿司は大好きですので、ISG Nishiの代わりに”Shushi Nishi”と呼んでいただいても結構です。

## 緑のワイズダム

南太平洋エリア会長 ジョン・ポンテフラクト

ワイズ国際協会は 2010年の横浜国際大会で「環境宣言」を  
発表しました、その概要は1号5頁に記載してあります。

カーボン・オフセットに投資する基金をお願いしていま  
すが、その趣旨、関係資料は国際WEBサイトからダン  
ロード出来ます。http:ysmen.org/index.php?id=367を開い  
てください。



## 「愛」 — 寒さの中で

シン・ジャイスング (YMW 副編集長・韓国)

ボランティアの活動は、時には見栄えのない、称賛され  
そうにない事柄に対してもなされます。ワイズメンズクラ  
ブの重要な務めの一つは、地域社会へのボランティア活動  
です。しかし、多くのワイズメンがそれをしたがるな  
ような活動もあります。私たちの現実、それほど単純では  
ないのです。例えば、時間に余裕のない職業をもつワイズ  
会員は、時には地域奉仕への参加に拒否反応を示すこと  
もあります。自分のビジネスに関係ない活動には参加し難  
いこともあるのです。

とても寒い吹雪舞う中で、ちじんだ二つの手を優しく暖  
かく重ね合わせると、本当に心にまで温かさを感じます。  
実はこのことが、韓国ゴングジューの町で、ゴングジュー  
クラブの手によって起こったのです。クラブの会員たち  
は、死ぬほどの寒空にも負けませんでした。昨年12月、  
彼らは、暖房もなく凍え死ぬような寒さの中で、絶望的に  
寂しく生きていた人たちの救援活動に出て行ったのです。

クラブはこの救援活動に、生きる糧すべてを失った10  
軒の家庭を先ず選びました。暖房用に石炭練炭を集め、  
200個の練炭(1戸当たり100US\$にもなる)を各戸の庭  
先まで運び込みました。そして、このトータル2,000個の  
練炭は、「愛の練炭」と呼ばれたのです。

服は石炭屑に塗れ、路面の氷に滑りながら、クラブメン  
バーたちは、「この貧しい人たちに温かさを」と願うその  
一心のみで、この練炭を引きづり運んだのです。丁度この  
時、町の町長や議員たちがやってきて、温かい飲み物も  
もって励ましてくれました。

「我が国の経済は急激な成長を遂げています。しかし今  
日、私たちの周りにはまだ多くの貧しい人たちもいますの  
です。社会で疎外された階層の人たちの経済状態は、更に悪  
化へと進んでいるのです」と、クラブ会長のキム・スニヤ



ングさんは言いました。

直前アジア地域会長のチョン・ビュンゲ(ゴングジュー  
クラブ会員)が言いました。「地域奉仕活動は、クラブ存  
続価値の全てであり、その最大のもの。それは義務(duty)  
— 高い身分に伴う義務 — であり、私たちワイズメンが絶  
えず胸に秘め置くべき大事なもののなのです」と。

## 会員獲得への 素敵な試み

サイン・ジェンキンス (カナダ・サマーサイドクラブ)

カナダのプリンス・エドワード島で活動するサマーサイ  
ド Y サービスクラブは、新会員の募集に、素敵な「オリエン  
テーションの夕べ」を、YMCAで3月に開催することを  
決めました。短い時間ながら、ワイズの活動や YMCAの働  
きの素晴らしさを紹介するためです。

この夕べには、YMCAの青年会員の親たちや将来会員  
になってほしい若者たちを招待します。そこで、ワイズや  
YMCAの活動に参加することが、私たちの人生にとってど  
んなに素晴らしいことか、そのインパクトを伝えるのです。  
活動の様子をパワーポイントで親しく伝えようとするのも、  
その一つの試みです。このため、クラブメンバー全員がそ  
れぞれ、将来このクラブのメンバーになってほしいと思  
う青年を、できるだけ多く招こうとしています。目標は 25名  
です。この夕べには美味しいスナックや飲物も用意します。  
こうして、私たちのクラブは成長間違いなしです。

## ロールバックマラリア 配布キャンペーン

2010年11月26日から12月2日まで、前の年度の第1回ロールバックマラリア(RBM)キャンペーンで得られた基金により、シエラレオネ国内全土に、殺虫剤を染み込ませた蚊帳(LLIN)300万張り以上を配布する第2回の大キャンペーンが展開されました。特に同国東部のコーノ、カイラフン2州では国際ワイズメンとオランダ赤十字が全州民に行き渡る計44万200張りの費用を負担して、このキャンペーンを実行しました。

国際赤十字・赤新月社連盟との協議の後、フリータウンYMCAのヘンリー・マコーレーは55名のYMCAボランティアをカイラフンに動員しました。カイラフンにはシエラレオネで首都フリータウンに次ぐYMCAの2番目のブランチが1982年に設立されたのですが、内戦中にカイラフンのYMCA会員の多くはフリータウンに避難していました。彼らは戦後に戻ってきて、農具の供給、学校再建など地域の復興に取り組んでいるのです。



今回カイラフンでのキャンペーン開始に際し、55名のYMCAボランティアは国際ワイズメンと国際赤十字の共同歩調のことをよく学びました。前回2009年の同国西部での蚊帳キャンペーンについてもその経験を学びました。YMCA会員たちもこのキャンペーンに加わり、翌日から州内各拠点に分かれて配布作戦に従事しました。母子健康週間とも重なり、この蚊帳配布キャンペーンはロールバックマラリアの大きなステップになりました。

2011年1月の国際年央会議はジュネーブで行われましたが、会期中に会議参加者は同市内の国際赤十字・赤新月社連盟事務局を訪問して、同連盟の戦災・天災時の働きや保健事業について学び、事務局スタッフとの記念撮影に収まりました。

## 世界マラリアデー 2011 の主題

世界マラリアデーは毎年4月25日に記念され、世界中で、安価・安全で効果的なマラリア撲滅の処方を整備するとともに、蚊帳をはじめとする予防手段の普及を強調する機会となっています。



この日はまた、毎年、国際ワイズメンがロールバックマラリア(RBM)運動の一翼を担う者として、RBM基金への貢献を奨励し、人類の半数30億人の生命を脅かすこの疾患に対し警鐘を鳴らすキャンペーンのスタートの日です。

今年4月25日の第4回世界マラリアデー(WMD2011)は重大な日限です。2000年4月にナイジェリアの首都アブジャで採択された「アブジャ・マラリア目標」は現段階では達成されねばならず、マラリア撲滅キャンペーンの全世界への浸透度も未だしの感があります。世界マラリアデー2011は、ここまでははっきり進展したといえる点を確認する時であり、2015年までにマラリアによる死者を限りなく0に近づけることを誓う日です。

世界マラリアデーを機に、世界のワイズメンズクラブはこの予防可能な疾病と戦う努力を新たにし、5年間で50万スイスフランを目標とする基金づくりに取り組みます。

皆様のクラブも、クラブと地域社会を巻き込むイベントを企画して、マラリア啓発のキャンペーは2号4頁を見てください。

米国のステファニー・アムトに感謝しなければなりません。2008/9年度のRBMの素晴らしいちらしを作ってくれました。現在はまた新しいプログラムのちらしを作成中です。パーメ・シェンデルスコフ、シルバレイスとオルガ・アザリアンの助けを得て、オランダ、スペイン、ロシア語版も作成しています。

## 美術からお金を

ビル・シュミット

(豪、カンガルーフラットYサービスクラブ)



チャリティーワークでお金を得るのは簡単ではありませんが、私たちの美術展はこの5年間にわたり大成功を取っています。第5回には当地の作家たちの絵画140点以上が展覧されました。良い仲間、美味しい食事、すばらしい美術作品に加え、ハープ奏者兼歌手のアラーナ・コンウェイが

会員と一般参加者を魅了してくれました。本クラブの元会員パトリック・ヴァードンが最高の油彩画を出品しました。この資金稼ぎが成功している理由の一つは、私たちがスポンサーに恵まれていることです。よいスポンサーを獲得するのは容易ではありませんが、努力の甲斐は必ずあります。このイベントで、クラブは2千豪ドル以上の収益を挙げました。このお金はクラブからYMCA、ユース、そして地域社会への貢献のために役立てられます。

## 名前に込められた意味

デーブ・ホール

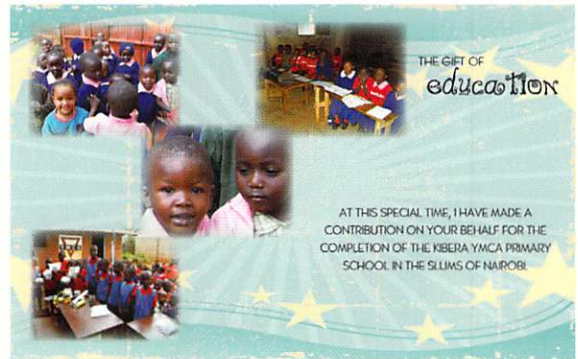
オタワ・インターナショナル・ワイ サービスクラブ

最近カナダのオタワ・クラブは、その名称をオタワ・インターナショナル・ワイ サービスクラブと変更しました。

「インターナショナル」という言葉を使うことにより、その強く世界を意識した奉仕の業への約束を表現し、かつカナダの現実である複数文化、複数信仰を反映したものです。

これについての例を挙げると、オタワ・クラブは、南ナイロビクラブと共に、ナイロビのキベラ貧民街の初等職業訓練学校の完成に資金拠出しました。資金拠出の目標は、ケニヤYMCA評議会が、学校の設立のみならず、キベラ地域に奉仕するYMCAを設立するための費用12万カナダドルを3年間で調達します。

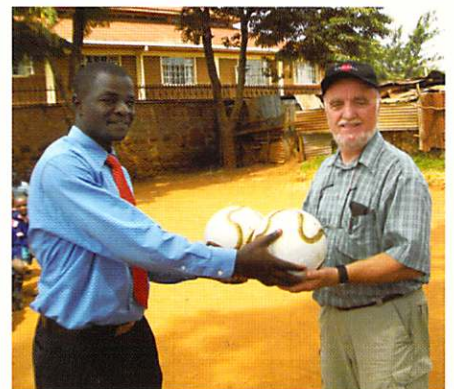
カリブ海区ジャマイカ部との地域提携の一環として、メイペンと兄弟クラブ関係を形成し、会員バッジの提供を行うと共に、最近の平和活動会議に出席する2人の成人への支援を行いました。去る2月、区理事であるオタワ・クラブのデーブ・ホール



はジャマイカのクラブを訪問し、中央カナダが如何にジャマイカのクラブの発展と繁栄への助けができるかについて話し合いました。

同区におけるロールバックマリア基金を支援するため、オタワ・クラブは、このプロジェクトと他の3つのプロジェクトに対し、最低10カナダドルを寄付した人への特別なギフトカードを作りました。2009/2010の期間、初回のカードは、クラブがロールバックマリアキャンペーンで5千カナダドル以上(40万円強:訳者註)を調達するのに役立ちました。次のカードは、カナダ全土で使うことができるよう、5月の地域大会に間に合うよう作る予定です。

このようなプロジェクトに関する基金は、区を代表してオタワ・クラブが調整するFairTrade®スポーツ競技用ボールの販売利益よりもたらされます。このような国際的活動においても、オタワ・



クラブは地域とYサービスの重要性を忘れたわけではありません。地域祈祷所(教会)との連携を通じ、会員はオタワ最大の低所得者用住宅プロジェクトの計画ならびに奉仕に関し、資金支援と個人の参加をしています。

新メンバーの増強に関しては、理想に燃え、この世に変化をもたらし道を模索しており、自らの地域社会に対して意味のあるお返しをするために早期退職の道を求めている若い人たちが対象としています。

※ Fair Trade フェアトレード(公平貿易)とは、発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することによって、生産者の持続的な生活向上を支える仕組みです。(訳者註)

## 教育事業

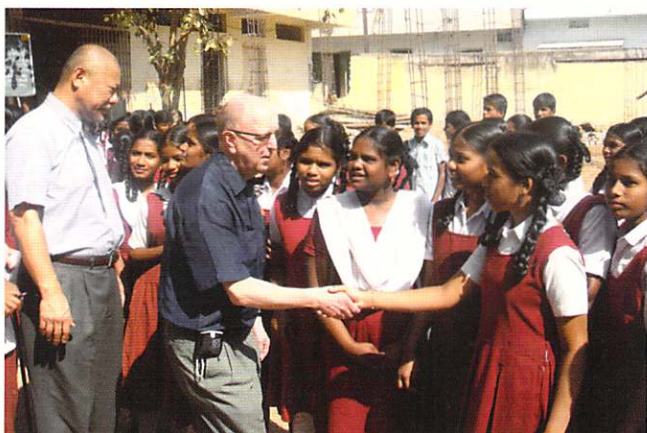
TOF グローバル・プロジェクト・ファンド国際事業主任  
ビジャヤ・クマール

1958年にチャーターされたハイデラバード・ワイズメンズクラブは中央インド区で古い歴史を持つクラブです。このクラブは過去52年間、地域社会において賞賛に値する奉仕活動を行って来ました。とりわけ、エクステンション、IBC交流、世界的視野プログラム、洪水・サイクロン救済事業、医療・健康キャンプの実施、孤児・貧民・高齢者を対象としたプログラム、ユース事業プロジェクトや多くの意識向上プログラムに積極的に取り組んで来ました。

2007年以来、ハイデラバードクラブは「プロジェクトー教育」という奉仕プロジェクトに取り組んでいます。視覚障がい者、児童労働がインド社会を分離している二つの極めて重要な要因です。貧困であるが故に親によっては、お金を得る為に子どもを学校に通わせないで肉体労働に従事させています。

ハイデラバードクラブは、「動機づけをし、教育を与え、権限を与えよう」というスローガンを掲げて「プロジェクトー教育」に取り組んでいます。私たちは子ども達、とりわけ女子に学校に通い、十分に学習し、将来は責任ある市民になってほしいと願っています。我々は適切な教育さえ受ければ彼女達の人生は変わると信じています。何故なら教育は基本的権利とそれに伴う義務について彼女達を啓蒙してくれるからです。インドにおいて女性は家庭制度の支柱であるので、教育を受けることによって子ども達を正しく育て、立派な市民たらしめる上で中心的な役割を果たすことができます。

本年度はタラバスティ（ハイデラバードのスラム街）にある公立高等学校をこの事業の対象校として選びました。質の高い教育を提供し、最低2年間、彼女達の基本的ニーズの幾つかを満たしたいと思っています。次期国際会長フィ



ン・ペダーソンと西村隆夫国際書記の二人は2011年2月、次期理事研修会の為にハイデラバードを訪れた際に、この学校を訪問しました。両氏は学校で有意義な時を過ごし、300人を超す学生に昼食弁当とビスケットを配給しました。両氏の訪問と交流は教職員のみならず、学生達を感激させ、関係者全員にとって忘れ難い出来事となりました。学生達は一生懸命勉強して、祖国の為に最善をつくすと誓いを立てました。

このプロジェクトはレインボー・ワイズメンズクラブとチャイタンヤプリ・ワイズメンズクラブによって共同支援されています。沼津ワイズメンズクラブから3名の日本のワイズメンの方もこの奉仕プロジェクトに参加されました。

## 決 議

ヨーロッパエリア会長 マリット・トーブ

エリア議会の会議は、多くの議論をして決議を行うので、しばしば極めて真剣な場となります。ヨーロッパエリアでは、1日の話し合いを終えると土曜日の夕方には場を和ます為にパーティーを催します。10月にノルウェーのフレドリクスタードで開催された冬の会議では、地元のクラケロイクラブのメンバーと会って親睦パーティーを開催し、抽選会を行った結果500ユーロの献金が集まりました。

ロシア区大会はその前年の9月に開催され、委員はチェルノウソバにある孤児院を訪れました。抽選会で集まった献金はエカテリンブルグ第2クラブのメンバーが、年少の子ども達のスポーツ靴と、5月に孤児院を出ることになっている年長の子ども達のファッション・ブーツと、革靴を買う為に孤児院に届けました。その子ども達の笑顔が、この寄付行為がエリア議会の最も重要な決議事項であったかも知れないという事を物語っていました。





## 2012年のスタバンガー国際大会

2012年8月2日～5日

2012年開催の国際大会の準備は順調に進んでおります。ホスト・コミティーもすべてではありませんが、決まりつつあります。みなさんにノルウェーのスタバンガーで素晴らしい体験をしていただきたいと思います。1日（水）は日帰り観光。2日（木）は開会式と基調講演、その後一同に会してディナー。横浜大会の環境テーマを出来る限り引き継ぐ予定です。3日（金）は、会議後、『ホームステイ・ディナー』で海外参加者が4～10人ずつのグループになって、地元ワイズメンの家の夕食に招く予定です。市一番の素晴らしい教会でジャズライブもあります。

4日（土）も、会議から始めますが、昼食後は、スタバンゲル郊外へバス観光に行き、山々やフィヨルドをお楽しみください。その山の中で、ノルウェーの文化や工芸品を見たあと晚餐会を開き、遅くならないうちにホテルに帰ります。

5日（日）はユースと共に閉会式があり、昼食後は、半日観光があります。

宿泊施設もいろいろな価格帯で準備しております。スタバンガーには、ヨーロッパへのハブ国際空港（SVG）があるので、非常に便利です。

詳細についてはこちらのHP（<http://www.ic2012.org>）をご覧ください。

## 横浜で3クラブ合同親睦会

谷川 寛(大阪センテニアルクラブ)

私達は、ハワイ・ホノルルのヌウアヌ・クラブと香港のパウヒナニア・クラブの2つのクラブとブラザークラブを結んでいます。日本から近い利点を生かして定期的にクラブ訪問をしています。これがブラザー・クラブ提携を成功させる鍵です。

25年前、ハワイのヌウアヌ・クラブは私達と一緒に香港サイ



ンをするところまで発展しました。それ以来、ブラザー・クラブ交換プログラムは、定期的な訪問を繰り返して来ました。

しかし、3クラブが一同で会うのは、そう簡単なことでありませんので、我々は、2010年8月に開催された横浜国際大会で、日本に集まることにしました。

ハワイクラブのモーリス・シモニシ氏と香港クラブからエルシー・ウー氏と4名のメンバーが、横浜で一緒に会いました。大会後、香港クラブのメンバー達は、京都にも来られました。我々は、ハワイと香港にブラザー・クラブがあることを非常に誇りに思っております。それは、国によって異なるプログラムが学べるからです。

私は、すべてのワイズメンが、ブラザークラブを通して、その国の人、文化、YMCA活動について学ぶために、ブラザー・クラブ関係を築くことを奨励します。ブラザークラブで培った経験は極めて貴重です。

## ワイズメネットー 2010

メネット ID 藤井祥子

国際大会は昨年8月、日本の横浜で異常な猛暑の中、開催されました。外国からのお客様には浴衣を着ていただき、日本の祭音楽に合わせて踊っていただきました。そのために、メネットはこの浴衣を200着用意してくださいました。また、今大会のメネットプログラムの成功は、メネットだけでなく、参加して下さったワイズメンのみなさんのお蔭であると感謝しています。



「平和の祈り」の時に折鶴のレイをみなさんに着けていただく計画を立て、日本中のメネットが何百、何千という折り鶴を折って横浜に送ってくださり、準備できた500の千羽鶴レイを大会参加者の首に掛けることができました。平和の祈りと共に千羽鶴をそれぞれの国に持って帰っていただきました。折り紙も平和の祈りに参加しました。

メネットアワーでは、600人の参加者が6つのグループに分かれ、日本の伝統的な遊びに興じました。折り紙、お手玉、香遊び、羽根突き、エコバッグ作りや千代紙や紙粘土など。部屋は笑いとおしゃべりでいっぱいでした。ティータイムでは、参加者にお茶のお点前を経験していただきました。日本のお抹茶を味わっていただくと同時に茶道のお作法を紹介しました。メネット

## 成せば成る

アワーの最後にドイツからの Elfie Musil 国際議員が突然に感謝の言葉を述べてくださったことは感謝であり驚きでした。

国際大会の準備段階では、恐怖と心配でいっぱいでした。しかし、結果は思っていた以上に大成功でした。日本のワイズメネットが大変な力を発揮してくださったことを誇りに思います。この大会の成功は、一重に3年間準備してくださった方たちの献身的な奉仕、英知の結集、そして親密な協力によるものであり、私は心から皆さんに感謝いたします。

## 1 + 1=50,000

2010-2011 次期国際会長 フィン・A. ペダーセン

ワイズメンズワールドの読者のみなさんは、私たちの運動が1922年、アメリカのトレドで始まったことをご存知でしょうか。この年から判断してお分かりのように、私たちの運動はまもなく100年を祝うことになります。国際議会は2022年に向けたビジョンを想定、「2022に向けて」(Towards 2022)という提言に盛り込まれます。

新しいビジョンは、「従来の“権利には義務を伴う”というモットーを維持しつつ、力強い意欲的な会員を中心に、ユースに力点を置き、人間の価値を増進する自主的な奉仕団体として世界的に認知される運動体をめざします。そして、私たちの住むよりよき世界を築くために、YMCAや、国連、その価値ある団体と積極的協力関係を結ぶべく努めます。」

このビジョンには、2022年を目指したゴール・目標も盛り込みます。それは、100の国々に50,000人の会員を有すクラブを目指すものです。2022年はまだかなり先であり、大半の人たちはそこまで考えていないでしょう。しかし、会員数増強の目標を考えると、私たちは今始めなければなりません。

私は、1+1=50,000という目標をつくりました。どうやって到達するのかですか、尋ねるでしょう？

1. 現在の会員一人ひとりが、クラブに一人のゲストを招き、その人が会員になれば、その目標は簡単に到達できます。みなさんは最低、必ず一人を招くことができます。その人とは、あなたの家族(奥さん)かもしれません。隣の人かもしれませんし、友人かもしれませんし、同僚かもしれません。あるいは、YMCAの会員かもしれません。あなたの教会員もあり得るでしょう。ひとりが一人だけでは充分でないかもしれません。2022年までに2年ごとに一人の新しい会員の勧誘が必要かもしれません。
2. また、あなたのクラブが新しいクラブ誕生の指導権を握ることも必要です。

これが、1+1=50,000という構想です。各自が一人の会員を(1+1)、各クラブが一つの新しいクラブ(1+1)を。私の夢は強い運動体の実現です。私たちの最善のイメージとは、誇りある会員、そして、活発なクラブです。このような足し算をすることは容易ですが、しかし、実現することは容易でない、とあなたはいうでしょう。しかし、やったことありますか？ 今が考える時です。私たちは“敢えてやってみよう”(Dare to do)とする必要があります。さあ、やりましょう。

“とにかくやろうー成せば成る (“To Dare is to Do”)

## 2 エリア合同次期理事研修会を主催して

ジェリー・ズィヒターマン  
米国ノースウエストワイサービスクラブ

2010年11月、次期エリア会長メリー・A・フォリップスの指導のもとで開催されました。加州の私たちクラブは、多くの次期理事のための夕食会を開きました。その夕食会には、アメリカ、カナダ、ラテンアメリカ、そしてSouth Pacific Areasの次期理事がたくさん集まりました。そのワイズメンとは、8カ国、そして、アメリカの6つの区の代表たちです。この夕食会に参加したアメリカ以外の国からの代表には、私たちクラブのバナーが渡されました。



私たちのクラブにはできることは限られていますが、当日、ワイズ運動の指導者たちをお呼びして、親しくできたのは収穫でした。その会には、近く退任する国際書記のRoland Dalmasさんと奥さん、後任の西村隆夫さん、次期国際会長Finn Pedersenさんと奥さん、そして現理事、次期理事が10名出席してくれました。このような夕食会を私たちのクラブがホストできたことはワイズ運動の国際的広がり学び、私たちの運動をさらに強めるのに役立ちました。

## 青年との協働

チュー・アイ・アナ・チェン 台湾区南部部長

高雄ワイズメンズクラブは40年の間、英語スピーチコンテストを主催してきました。40年前は、高校で英語を教えるはいましたが、学生は口を開いて英語を話すことは殆どできませんでした。学生を勇気づけるために高雄クラブは毎年英語スピーチコンテストを主催し始めました。コンテストは高雄市の高校に大いに認められてきました。このコンテストに関心を持つ学校が次第に増えてきて、2010年のコンテストには65名の学生が学校代表として参加しました。

もっと多くの青年や大人がワイズメンズクラブのことを知ってくれることを願って、高雄ポート・ワイズメンズクラブは2010年、路上ダンス競技会を主催しました。競技会は週末に高雄市有数のデパートの中庭で行われたので、多くの聴衆を集めました。20チームが優勝を争いました。最後に、ワイズメンズクラブは市長に優勝杯を授与して頂くという非常に栄誉に浴しました。



「礼節の国台湾」プロジェクトは台湾区が2003年に始めた事業です。その目的は学生たちに洗練された礼儀作法を身に付けることを奨励することです。それには、いつも「プリーズ」「有難う」「済みません」と言う、人に笑顔で挨拶し、規律を守り、他の人のために働き、公共の場所では静かに話すこと、などを含みます。活動の一例をあげると、ピントン・ワイズメンズクラブのジェン・リアン・チェン会長と会員たちは人里離れた場所の学校を訪問し、校長にこのプロジェクトを説明しました。そのプロジェクトは受け入れられ、クラブはその学校の先生に「微笑みのステッカー」を配りました。先生は学生たちが礼儀正しい振る舞いをするとそのステッカーをあげます。1月の終わりに一番多くステッカーを集めた者は「微笑みの天使」と呼ばれます。各クラスから3名の「微笑みの天使」が選ばれ「微

笑みの天使」の証明書と賞品をもらいます。すべてのクラブがこのプロジェクトに応じて活動し、学校から多くの積極的な反応を得ました。学生の行動に改善が見られたと学校は言っています。その結果、台湾のワイズメンは2011年もこのプロジェクトを継続します。

このすべての活動は、その結果を目の当たりにした子供たちに対しても大人たちに対しても台湾のワイズのイメージを向上させました。

## 感謝の言葉

タチアナ・ピスクリョーバ  
ブジャーブル・ワイズメンズクラブ (ロシア)

ロシア最初のワイズメンズクラブであるブジャーブル・ワイズメンズクラブは今年チャーター20周年を迎えました。世界にははるかにもっと古いクラブが沢山あることは知っています。でもこれは特別なのです。歴史は、ノルウエーのワイズメンの団が旧ソビエト連邦で最初のワイズメンズクラブをチャーターすべく小さな北の街キロブスクに到着した1991年の春に遡ります。その時以来ワイズメンズ運動はロシアに急速に広がり、2003年にはロシアは独立した区になりました。20年にわたりノルウエーのワイズメンはロシアを支え続けてきました。彼らは民主主義の原理を私たちに教えてくれ、ワイズの無私の奉仕と献身の実例を示して私たちが奮い立たせ助けてくれました。

ノルウエー区の今なお続いている援助と支援に対して深甚の感謝と愛を表明する時、私はロシア区を代表して述べているのです。私たちと親しく接触したノルウエーの友人たちの名前をすべて挙げることは全く不可能です。しかし、ロシアワイズの「ゴッドファーザー」であるロシア最初のワイズメンズクラブのチャーターの創始者であるノラルブ・ガブリエルセンに特別の謝意を表すべきでしょう。

## Toward 2022

ISD-LTOD フレッドレナード

皆さんは、我々ワイズメンズ国際協会の100回目の記念日が2022年にあると理解していましたか？

次期国際会長 フィン・ペダーセンは、Vision2022の展望を概説して、我々がいかにしてこの展望を成し遂げるか方針を出しました。その1つは、国際議会2010で2022年6月30日までに加盟国を100カ国にし、会員を50,000人すること目標を決めたことです。

このためには、国際議会は、目標達成のためTowards 2022 チームを組織しました。チームは国際執行役員と会員増強に関わる6つの国際事業主任から成ります、会員増強、クラブ拡張（特に新地域、新国）、LT、YI、CS、YMCAサービスとワイズイメージ実働委員会、国際議会機構改革委員会から構成します。

最初の行動は、Towards2022の目標達成度をインターネットによる調査を行うことになっています。目標を設定すべく臨時のガイドラインを作り、我々が現在どの位の段階にあるか分かる度合い基準を設定するために、新しい国際ウェブサイトでクラブと区に調査する準備をしています。

Towards 2022のためにロゴを募集します。ワイズ会員には創造的な人々、デザイン能力のある人々がおります。沢山の応募を期待しています。アイデアまたは作品をFred Leonard, ISD-LTOD; 408 Cedarwood St, Hot Spring, Arkansas, 71901-8122, USA へ郵送または fleonard@cablelynx.com にメールで送ってください。

ワイズメンズ国際協会は、周囲に影響を与えている何千人もの仲間がいる価値ある組織です。100周年記念日に向かって行動を開始したワイズメンの強さを示す必要があります。

## 直前国際会長の惜別のあいさつ

親愛なるワイズの皆様、

私が国際執行役員の務めが終わる時間は時計がカチカチ鳴っています。国際役員になってからの仕事を楽しみながらも挑戦の連続の3年経ちました。我々の運動は、国際的な奉仕団体として認められるからこそやるべき仕事は沢山あります。



我々の協働団体としてYMCAだけでは十分ではありません。我々は、地域社会の中で奉仕活動を拡大し続ける必要があります。会員成長の最大の機会がどこに存在するか、ここにあります。我々の地域奉仕の活動を地域の方々が見ればワイズ入会の希望を持つでしょう。その人たちは、我々が誰であるかでなく、我々の行動を見て入会を望むのです。私が国際執行役員を務め終わった後も国際的なワイズメン活動を終えるわけではありません。次期国際会長のフィン・ペダーセンは、私にCS（地域奉仕）国際事業主任になるよう要請しています。各国での地元クラブと接触して成果の出た地域奉仕活動の例を集められる機会を得られる事業主任として新しい挑戦に挑みます。皆さんのYMCAと地域に奉仕する活動物語を共有することを望みます。

新しいクラブをチャーターするクラブ拡張でワイズは成長し続けます、あなたの成功例がこれらの新しいクラブに励みなり、それがまたワイズの発展に寄与します。次期国際会長フィン氏の主題は『とにかくやろう一成せば成る』です。私は各々のクラブに新しい何かをすることが出来るものならやってみると挑発し、地域で皆さんのユニークな活動をアピールしてください。

敬具

直前国際会長 ケビン・カミングズ

Y's Men's World N° 3 2010/11

EDITORIAL BOARD

Editor

Alan Wallington 21 Overdale Road, Downend,  
Bristol BS16 2RU, England

Tel: +44 (117) 9568285 Skype: Ysmanwally  
email: <editor@ysmen.co.uk>

Layout Support : Carol Lunt, Graham Walker & Mike Bendrey

Distribution : Josey Joseph

Pallamkulam, PTR A 96 Plamood, Trivandrum 695 004, India

Reprinted at : S T Reddiar & Sons (EKM)

Ernakulam, Cochin 682 035, India